

勸善懲惡 讀功講釋

時々風も松平猛死落のおと一嵐

長七郎とよまへ一人世を裁きし

大晴のはるさも折てかろん

阿波座からまか太良助の

住家小身をよせ夜毎

日よとの散聚をかき

小袖の廓がらムカノ

詮美揚代の

切羽はさうし

軽尻不宮根

八里の馬士唄ハ声も高野の祠堂金

三千兩を我ものこ支へるものをとろまろ

左りかゝるの手のうち水もたまたぬ日本橋

まごいの轉宿浪人定子僅花一日の栄耀

時ゆわらまゆと勸懲の一端不まろ

雲のせのちを巡るを移るぬ 芭蕉

花源堂記



松平長七郎

勸善懲惡

馬士政

守